

松下幸之助記念志財団 研究助成

研究報告

(MS Word)

【氏名】

久保田 ちひろ

【所属】(助成決定時)

京都大学 アジア・アフリカ地域研究研究科 アフリカ地域研究専攻

【研究題目】

契約農業は農家の生計を向上させるか？

- ケニア・ナクル県におけるサヤインゲン栽培の事例 -

【研究の目的】(400字程度)

本研究の目的は、契約農業 (contract farming) が生計戦略の中でいかに選択されているか、アフリカにおける農民の属性や社会経済的状況に即して明らかにすることで、契約農業が生計を向上し得るのか検証することである。

契約農業は、事前に企業と農家の間で買取価格を定めることで、農家に販売機会を提供し、現金収入を向上させる方策の一つとして注目されてきた。調査対象グループでは、基本的に3週間に一度、企業側からサヤインゲンの種子が配布される。ここで各農家は、グループに属したまま種子を受け取らずに契約農業を休止する選択肢を取ることもできる。そのため、農家はサヤインゲンを含めた複数の作物の中から栽培する作物を選択して営農している。現地調査によってさらに詳細に、農民の生計の多様性と多面性の中に契約農業を位置付けることで、農家の生計にどのような影響をもたらすかを明らかにする。

【研究の内容・方法】(800字程度)

<研究方法>

本研究は、契約農業に参加/休止する要件を多様な生計戦略から実証的に解明することで、契約農業が農家の生計を向上する可能性があるのかを検証する。さらに、コロナ禍以降の農村における社会環境の変容を含めて明らかにするものである。そのための研究方法として、これまでの研究に引き続きケニア中西部にあるナクル県ロンガイ市B村において、現地調査を行う。

<研究計画>

本項目では、農家世帯の収入と支出に関する生計戦略を明らかにし、その中で農家がどのように契約農業を選択しているか解明する。具体的には、以下の項目を半構造化インタビューと参与観察によって定性的に明らかにする。

- (1) 農業収入：昨年1年間の農業から得た収入を明らかにする。そのために、昨年栽培した作物の種類、農地の作物ごとの配分、栽培する作物を転換したのか聞き取る。契約農業以外で販売した作物の流通ルートと販売価格をローカル市場で聞き取る。
- (2) 農業以外の収入：農業以外で雇用されて得る賃金、または出稼ぎをしている家族からの送金があるか、金額を聞き取る。さらに、各世帯の賃金労働の形態と雇用機会を明らかにする。
- (3) 主要な支出の把握：主な現金支出項目(食費、生活費、教育費、医療費など)とその金額を聞き取り、世帯の成員が、その項目にどのように関わっているか、世帯ごとに異なる契約農業への潜在的現金ニーズを把握する。
- (4) 契約農業の長所と短所についての認識：契約農業への農家の主観的判断を明らかにする。農家が契約農業に対して持っている長所と短所について聞き取る。

以上の観点に加え、コロナ禍以降の調査対象グループの変容や、契約制度の変化を聞き取り調査によって明

らかにする。

これらの調査項目から、どのような属性を持つ農家がいかに契約農業を選択したか、どのような場合に契約農業への従事を選択するのか複合的に検証する。

【結論・考察】（４００字程度）

2022年4月から7月にかけて、約3ヶ月間の現地調査を実施した。主な成果は、以下の3点である。①聞き取り調査により、コロナ禍において、これまでのグループでの契約を停止し、個人への契約へ移行した経緯を明らかにした。②91名の農家に対して質問票調査を実施し、各農家の社会経済的属性と、現在の商業的作物の栽培状況に関するデータを得た。③調査地近郊の都市における市場と、調査地で生産された農作物の出荷先の都市における市場において、調査を実施した。これにより、調査地における農作物の流通状況を明らかにした。

聞き取り調査から、企業側と農家側の非対称な権力関係により、契約農業によって多くの農家が十分な利益を得られていない状況が明らかとなった。さらに、グループから個人へ契約が移行したことにより、ごく小規模な土地しか持たない農家は、契約農業に参加できない。同時に農家は、契約対象作物以外の作物では販売相手との交渉や支払いを猶予する余地を持つなど、柔軟なやりとりを重視していることが明らかになった。